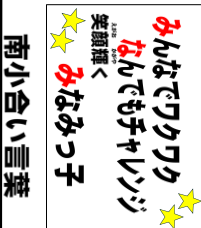




伊勢崎市立南小学校
第16号



伊勢崎市立南小学校
第16号
令和7年11月19日(水)



南小合い言葉

全国学力・学習状況調査の結果について【その1】 国語

4月17日(木)に実施した全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象として行われたもので、小学校の内容は国語、算数、理科と児童の生活・学習状況に関するアンケート(児童質問紙)でした。6年生には既に調査結果を配付しましたが、本校でよくできたところ、あまりできなかったところを具体的な問題とともにお示ししますので、ご覧いただければと思います。

3 木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的^{きはんてき}であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合も少なくありません。ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的^{たんかくてき}ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤^{せいご}を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

(文化庁国語課「文化庁国語課の動きいしやうい日本語」による。)

※1「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※2「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

二 木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料2】

「あたりまえ」は新しい形

「ふんいき」ということばを「ふんいき」と言う人が多くなりました。こう言うのと、「たいへんだ、日本語がこわれてしまふ」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言うでしょう。「あたらし」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたらし」になりました。「だ」と「ら」の順番が入れかわっています。つまり、「あたらし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらし」になりました。

(飯間浩明「日本語をつかまえろ」による。)

【資料3】

「とてもできる?」も「できる?」

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変えたいと思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまとまらない」のように、「とてもくさい」の形で言ったのです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ばくには、そんなことはとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「どうてい」という意味を教えます。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは「とてもできない」と言うやう、「とてもできる」とは言わないようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。

もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことばを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。昔はどうだったかを知ることは大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことばを現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明「日本語をつかまえろ」による。)

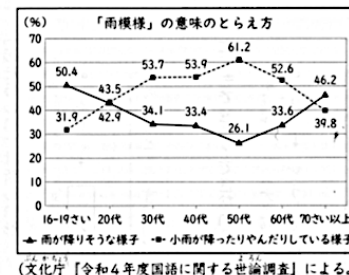
全国の正答率と比べて、本校の正答率が高かった問題、低かった問題については、次のページです。併せて、正答率が低かったことの分析や、今後の対策についてもお示しします。上記の問題は、次ページの問題につながる部分です。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

「資料1」には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤を軽く決めることはできない」と書かれていることになっているよ。

【資料4】



言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度「資料1」を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことをついて、その番号を書きましよう。

木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、「資料1」に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

田中さん

私は、この資料（「資料4」）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

木村さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

田中さん

木村さん

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 【資料1】の 部①
- 2 【資料1】の 部②
- 3 【資料1】の 部③
- 4 【資料1】の 部④

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番納得したことをついて、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件】

- 言葉の変化について納得したことをついて「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なったとした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※ 次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましよう。

正答例

言葉の正誤を軽く決めることはできないということになつてきました。100年ほど前の作家は「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いていたそうです。時代とともに言葉の意味が変化するのなら、「正しい」「あやまり」といった判断はできないはずだ。

今後の対策

◆ いろいろな教科を通じて、いくつかある資料を読み取って考えをまとめる力をつけていくこと

▼ 正答率の低かった問題

この問題は、全国の正答率を一番大きく下回ってしまった問題です。出題の意図としては、木村さんが納得したことを資料1の言葉や文を使って書き、その理由を資料2～4の中から抜き書きするということです。本校の傾向としては、何も書けなかった児童が多かったです。答えた児童も資料2～4の理由を書いただけで、資料1から納得したことを抜き書きすることができなかったようです。

● 正答率の高かった問題

この問題は、全国では4割程度の正答率だったのに対して、本校の正答率はそれを大きく上回りました。この田中さんの意見の中の「伝え合うときに困る」に着目することができれば、資料1のコミュニケーションについて述べているこれを選ぶことができるという問題でした。